RIP コマンド

この章は、次の項で構成されています。

- clear rip statistics （2 ページ）
- default-information originate （3 ページ）
- default-metric （4 ページ）
- ip rip authentication key-chain （5 ページ）
- ip rip authentication mode （6 ページ）
- ip rip authentication-key （7 ページ）
- ip rip default-information originate （8 ページ）
- ip rip distribute-list in （9 ページ）
- ip rip distribute-list out （10 ページ）
- ip rip offset （11 ページ）
- ip rip passive-interface （12 ページ）
- ip rip distribute-list in （13 ページ）
- ip rip distribute-list out （14 ページ）
- ip rip offset （15 ページ）
- ip rip passive-interface （16 ページ）
- ip rip shutdown （17 ページ）
- network （18 ページ）
- passive-interface（RIP） （19 ページ）
- redistribute（RIP） （20 ページ）
- router rip （22 ページ）
- show ip rip database （23 ページ）
- show ip rip peers （26 ページ）
- shutdown （27 ページ）

clear rip statistics

clear rip statistics 特権 EXEC モード コマンドは、すべてのインターフェイスおよびすべてのピアの統計カウンタをクリアします。

構文

clear rip statistics

パラメータ

該当なし

コマンド モード

特権 EXEC モード

例

次に、すべてのカウンタをクリアする例を示します。

```
switchxxxxxx# clear rip statistics
```

default-information originate

RIP（Routing Information Protocol）へのデフォルト ルートを生成するには、ルータ コンフィギュレーション モードで **default-information originate** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

default-information originate

no default-information originate

デフォルト設定

デフォルト ルートは RIP によって生成されません。

コマンド モード

ルータ RIP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

デフォルト ルートの生成を有効にするには、コマンドを使用します。

例 1：次の例では、デフォルト ルートを生成する方法を示します。

switchxxxxxx(config)# router rip switchxxxxxx(config-rip)# default-information originate
switchxxxxxx(config-rip)# exit

default-metric

default-metric ルータ RIP コンフィギュレーション モード コマンドは、他のプロトコルによって（たとえばスタティック設定）RIP アドバタイズ ルートが取得された場合のデフォルト メトリック値を設定します。このコマンドの **no** 形式を使用すると、デフォルト値が設定されます。

構文

default-metric [*metric-value*]

no default-metric

パラメータ

- ***metric-value***：デフォルト メトリック値。範囲：1 ～ 15。

デフォルト設定

metric-value：1。

コマンド モード

ルータ RIP コンフィギュレーション モード

例

次の例は、デフォルト メトリックを 2 に設定する方法を示します。

```
switchxxxxxx(config)# router rip
switchxxxxxx(config-rip)# default-metric 2
switchxxxxxx(config-rip)# exit
```

ip rip authentication key-chain

ip rip authentication key-chain IP インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンドは、認証の種類に使用でき、認証の種類を指定する一連のキーを指定します。このコマンドの **No** 形式を使用するとデフォルトに戻ります。

構文

ip rip authentication key-chain *name-of-chain*

no ip rip authentication key-chain

パラメータ

- ***name-of-chain***：キー セットの名前を指定します。名前変更パラメータは、**key chain** CLI コマンドで指定されたキーのリストを指定します。

デフォルト設定

キー チェーンは定義されていません。

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

キー チェーン名を定義するには、**ip rip authentication key-chain** IP インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンドを使用します。IP インターフェイスごとに 1 つのキー チェーンのみ定義できます。各 **ip rip authentication key-chain** コマンドは、以前の定義をオーバーライドします。

キー チェーン内のキーを円滑にロール オーバーするため、キーに以前のキーの有効期限が切れる数分前に開始する有効期限を設定する必要があります。

例

次に、チェーン名を定義する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface ip 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip authentication key-chain alpha
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip authentication mode

ip rip authentication mode IP インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンドは、認証を有効にします。このコマンドの **No** 形式を使用するとデフォルトに戻ります。

構文

ip rip authentication mode {**text** | **md5**}

no ip rip authentication mode

パラメータ

- **text**：クリア テキスト認証を指定します。
- **md5**：MD5 認証を指定します。

デフォルト設定

認証なし

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

MD5 認証を有効にする場合、**ip rip authentication key-chain** インターフェイス コマンドでキーチェーンの名前を設定する必要があります。IP インターフェイスのキー チェーンが定義されていないか、有効なキーがない場合は、その IP インターフェイスでは RIP パケットが送信されず、受信した IP インターフェイスのパケットはドロップされます。

クリア テキスト認証を有効にする場合、**ip rip authentication-key** インターフェイス コマンドでパスワードを設定する必要があります。IPインターフェイスのパスワードが定義されていない場合は、その IP インターフェイスでは RIP パケットが送信されず、受信した IP インターフェイスのパケットはドロップされます。

例

次に、md5 モードを設定する例を示します。

switchxxxxxx(config)# **interface ip** 1.1.1.1

```
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip authentication mode md5
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip authentication-key

RIPクリアテキスト認証を使用している隣接ルータが使用するパスワードを割り当てるには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip rip authentication-key** コマンドを使用します。RIP パスワードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

ip rip authentication-key *password*

no ip rip authentication-key

パラメータ

- ***password***：キーボードから入力可能な最大 16 文字の文字列。

デフォルト設定

パスワードは指定されません。

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

このコマンドで作成するパスワードは「キー」として使用され、このキーはスイッチ ソフトウェアによるルーティング プロトコル パケットの発信時にRIPヘッダーに直接挿入されます。各サブネットワークに別のパスワードを割り当てることができます。RIP 情報を交換するには、同じサブネットワーク上のすべての隣接ルータが同じパスワードを持っている必要があります。

IPインターフェイスごとに 1 つのパスワードのみ定義できます。各 **ip rip authentication-key** コマンドは、以前の定義をオーバーライドします。

例

次に、パスワードを定義する例を示します。

switchxxxxxx(config)# **interface ip** 1.1.1.1

```
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip authentication mode text
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip authentication-key alph$$12
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip default-information originate

ip rip default-information originate IP インターフェイスは、RIP のデフォルト ルートのメトリックを生成します。機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

ip rip default-information originate {disable | *metric*}

no ip rip default-information originate

パラメータの範囲

- **disable**：デフォルト ルートを送信しません。
- ***metric***：デフォルト ルートのメトリック値。範囲：1 ～ 15。

デフォルト設定

RIP の動作は **default-information originate** コマンドによって指定されます。

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

特定の IP インターフェイス上で **default-information originate** コマンドによって指定された RIP 動作をオーバーライドするには、このコマンドを使用します。

例

次の例では、メトリック 3 のデフォルト ルートの送信を有効にする方法を示します。

switchxxxxxx(config)# **interface ip** 1.1.1.1

```
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip default-information originate 3
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip distribute-list in

ip rip distribute-list in IP コンフィギュレーション モード コマンドは、着信 RIP アップデート メッセージ内のルートのフィルタリングを有効にします。このコマンドの **no** 形式は、フィルタリングを無効にします。

構文

ip rip distribute-list access *access-list-name* **in**

no ip rip distribute-list in

パラメータ

- *access-list-name*：最大 32 文字の標準 IP アクセス リスト名。このリストは、着信 RIP アップデート メッセージ内のどのルートを承認し、どのルートを抑制するかを定義します。

デフォルト設定

フィルタリングなし

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

受信した RIP アップデート メッセージから各ネットワークがアクセス リストによって評価され、リストによって許可されている場合にのみ承認されます。詳細については、**ip access-list (IP standard)** および **ip prefix-list** コマンドを参照してください。

例

次に、入力フィルタリングを定義する例を示します。

```
witchxxxxxx(config)# interface ip 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip distribute-list access 5 in
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip distribute-list out

ip rip distribute-list out IP コンフィギュレーション モード コマンドは、発信 RIP アップデート メッセージ内のルートのフィルタリングを有効にします。このコマンドの **no** 形式は、フィルタリングを無効にします。

構文

ip rip distribute-list access *access-list-name* **out**

no ip rip distribute-list out

パラメータ

- ***access-list-name***：最大 32 文字の標準 IP アクセス リスト名。このリストは、発信 RIP アップデート メッセージ内のどのルートを送信し、どのルートを抑制するかを定義します。

デフォルト設定

フィルタリングなし

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

IP フォワーディング テーブルから各ネットワークがリストによって評価され、リストによって許可される場合にのみ RIP アップデート メッセージに含められます。**ip access-list (IP standard)** および **ip prefix-list** コマンドを参照してください。

例

次に、発信フィルタリングを定義する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface ip 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip distribute-list access 5 out
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip offset

ip rip offset IP コンフィギュレーション モード コマンドは、着信ルートへの追加のメトリックを定義します。このコマンドの **No** 形式を使用するとデフォルトに戻ります。

構文

ip rip offset *offset*

no ip rip offset

パラメータ

- ***offset***：受信したルートに適用するオフセットを指定します。範囲：1 ～ 15。

デフォルト設定

offset：1。

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

例

次の例は、オフセットを 2 に設定する方法を示します。

switchxxxxxx(config)# **interface ip** 1.1.1.1

```
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip offset 2
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip passive-interface

ip rip passive-interface IP インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンドは、IP インターフェイス上の RIP パケットの送信を無効にします。このコマンドの **no** 形式は、RIP パケットの送信を再び有効にします。

構文

ip rip passive-interface

no ip rip passive-interface

デフォルト設定

RIP メッセージは送信されます。

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

特定の IP インターフェイスで RIP メッセージの送信を停止するには、**ip rip passive-interface** コマンドを使用します。すべてのインターフェイスでRIPメッセージの送信を停止するには、**passive-interface** コマンドを使用します。

注。no ip rip passive-interface コマンドは、**passive-interface** コマンドをオーバーライドしません。

例

次の例では、RIP メッセージの送信を停止する方法を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface ip 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip passive-interface
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip distribute-list in

ip rip distribute-list in IP コンフィギュレーション モード コマンドは、着信 RIP アップデート メッセージ内のルートのフィルタリングを有効にします。このコマンドの **no** 形式は、フィルタリングを無効にします。

構文

ip rip distribute-list access *access-list-name* **in**

no ip rip distribute-list in

パラメータ

- *access-list-name*：最大 32 文字の標準 IP アクセス リスト名。このリストは、着信 RIP アップデート メッセージ内のどのルートを承認し、どのルートを抑制するかを定義します。

デフォルト設定

フィルタリングなし

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

受信した RIP アップデート メッセージから各ネットワークがアクセス リストによって評価され、リストによって許可されている場合にのみ承認されます。詳細については、**ip access-list (IP standard)** および **ip prefix-list** コマンドを参照してください。

例

次に、入力フィルタリングを定義する例を示します。

```
witchxxxxxx(config)# interface ip 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip distribute-list access 5 in
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip distribute-list out

ip rip distribute-list out IP コンフィギュレーション モード コマンドは、発信 RIP アップデート メッセージ内のルートのフィルタリングを有効にします。このコマンドの **no** 形式は、フィルタリングを無効にします。

構文

ip rip distribute-list access *access-list-name* **out**

no ip rip distribute-list out

パラメータ

- ***access-list-name***：最大 32 文字の標準 IP アクセス リスト名。このリストは、発信 RIP アップデート メッセージ内のどのルートを送信し、どのルートを抑制するかを定義します。

デフォルト設定

フィルタリングなし

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

IP フォワーディング テーブルから各ネットワークがリストによって評価され、リストによって許可される場合にのみRIPアップデートメッセージに含められます。**ip access-list (IP standard)** および **ip prefix-list** コマンドを参照してください。

例

次に、発信フィルタリングを定義する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface ip 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip distribute-list access 5 out
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip offset

ip rip offset IP コンフィギュレーション モード コマンドは、着信ルートへの追加のメトリックを定義します。このコマンドの **No** 形式を使用するとデフォルトに戻ります。

構文

ip rip offset *offset*

no ip rip offset

パラメータ

- ***offset***：受信したルートに適用するオフセットを指定します。範囲：1 ～ 15。

デフォルト設定

offset：1。

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

例

次の例は、オフセットを 2 に設定する方法を示します。

switchxxxxxx(config)# **interface ip** 1.1.1.1

```
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip offset 2
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip passive-interface

ip rip passive-interface IP インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンドは、IP インターフェイス上の RIP パケットの送信を無効にします。このコマンドの **no** 形式は、RIP パケットの送信を再び有効にします。

構文

ip rip passive-interface

no ip rip passive-interface

デフォルト設定

RIP メッセージは送信されます。

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

特定の IP インターフェイスで RIP メッセージの送信を停止するには、**ip rip passive-interface** コマンドを使用します。すべてのインターフェイスでRIPメッセージの送信を停止するには、**passive-interface** コマンドを使用します。

注。no ip rip passive-interface コマンドは、**passive-interface** コマンドをオーバーライドしません。

例

次の例では、RIP メッセージの送信を停止する方法を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface ip 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip passive-interface
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

ip rip shutdown

ip rip shutdown IP インターフェイス コンフィギュレーション モード コマンドは、RIP インターフェイスの状態を **enabled** から **disabled** に変更します。このコマンドの **no** 形式は、状態を **enabled** の値に戻します。

構文

ip rip shutdown

no ip rip shutdown

デフォルト設定

有効

コマンド モード

IP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

設定を削除せずに IP インターフェイスの RIP を無効にするには、**ip rip shutdown** CLI コマンドを使用します。**ip rip shutdown** CLI コマンドは、**network** CLI コマンドによって作成された RIP インターフェイスだけに適用できます。**ip rip shutdown** CLI コマンドは、RIP インターフェイス設定を削除しません。

例

次の例では、1.1.1.1 の IP インターフェイスで RIP メッセージを無効にする方法を示します。

```
switchxxxxxx(config)# interface ip 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip shutdown
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

network

network ルータ RIP コンフィギュレーション モード コマンドは、特定の IP インターフェイスで RIP を有効にします。このコマンドの **no** 形式は、特定の IP インターフェイスで RIP を無効にして、そのインターフェイス設定を削除します。

構文

network *ip-address* [**shutdown**]

no network *ip-address*

パラメータ

- ***ip-address***：スイッチの IP インターフェイスの IP アドレス。
- **shutdown**：シャットダウン状態のインターフェイスで RIP が有効です。

コマンド モード

ルータ RIP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

RIP は、手動で設定された IP インターフェイスでのみ定義できます。これは、DHCP で定義された IP アドレス、またはデフォルトの IP アドレスでは RIP を定義できないことを意味します。

RIP 設定のデフォルト値を変更して、**no ip rip shutdown** CLI コマンドを使用し、インターフェイスで RIP を作成する場合は、**shutdown** キーワードを指定して **network** CLI コマンドを使用します。

IP インターフェイスの RIP を削除し、そのインターフェイス設定を削除するには、**no network** CLI コマンドを使用します。

例 1。次の例では、デフォルトのインターフェイス構成の IP インターフェイス 1.1.1.1 で RIP を有効にする方法を示します。

```
switchxxxxxx(config)# router rip
switchxxxxxx(config-rip)# network 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-rip)# exit
```

例 2。次の例では、シャットダウン状態の 1.1.1.1 で RIP を有効にして、メトリックを設定し RIP を開始します。

```
switchxxxxxx(config)# router rip
switchxxxxxx(config-rip)# network 1.1.1.1 shutdown
switchxxxxxx(config-rip)# exit
switchxxxxxx(config)# interface ip 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-route-map)# ip rip offset 2
switchxxxxxx(config-route-map)# no ip rip shutdown
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

passive-interface（RIP）

すべてのRIP IPインターフェイスでルーティング アップデートの送信を無効にするには、ルータ RIP コンフィギュレーション モードで **passive-interface** コマンドを使用します。RIP ルーティング アップデートの送信を再び有効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

passive-interface

no passive-interface

デフォルト設定

ルーティング アップデートは、すべての IP RIP インターフェイスで送信されます。

コマンド モード

ルータ RIP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

passive-interface コマンドを使用した後、**no ip rip passive-interface** コマンドを使用して隣接関係が必要な個々のインターフェイスを設定できます。

例

次の例では、すべての IP インターフェイスをパッシブとして設定し、次に IP インターフェイス 1.1.1.1 を除外します。

```
switchxxxxxx(config)# router rip
switchxxxxxx(config-rip)# passive-interface
switchxxxxxx(config-rip)# network 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-rip)# network 2.2.2.2
switchxxxxxx(config-rip)# network 3.3.3.3
switchxxxxxx(config-rip)# exit
switchxxxxxx(config)# interface ip 1.1.1.1
switchxxxxxx(config-route-map)# no ip rip passive-interface
switchxxxxxx(config-route-map)# exit
```

redistribute（RIP）

ルーティング ドメインから別の RIP ルーティング ドメインに ルートを再配布するには、ルータ RIP コンフィギュレーション モードで **redistribute** コマンドを使用します。再配布を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

redistribute *protocol* [**metric** {*metric-value* | **transparent**}]

no redistribute *protocol*

パラメータ

- ***protocol***：ルートの再配布元のプロトコルです。**connected** または **static** のいずれかのキーワードを指定できます。
- **metric transparent**：RIP で RIP メトリックとして再配布ルートの配布元プロトコル メトリックを使用します。16 よりも小さいメトリックを持つルートのみが再配布されます。
- **metric** *metric-value*：再配布されたルートに割り当てられたメトリックを指定します。この値は、**default-metric** コマンドを使用して指定したメトリック値よりも優先されます。

デフォルト設定

ルート再配布は無効です。

コマンド モード

ルータ RIP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

配布元プロトコルに配布されたルートは、これにより再配布されることはありません。

connected キーワードは、RIP が有効になっていない定義済みの IP インターフェイスに対応する RIP ルートへ再配布するために使用します。デフォルトでは、RIP ルーティング テーブルには、有効になっている IP インターフェイスのみに対応するルートのみが含まれています。

static キーワードは、RIP スタティック ルートを再配布する場合に使用します。デフォルトでは、スタティック ルートは RIP に再配布されません。

メトリック値をルート マップで（**set metric** コマンドで）設定する場合、この値は *metric-value* 引数で指定されたメトリック値よりも優先されます。

metric キーワードが定義されていない場合、**default-metric** CLI コマンドで指定されたメトリックが、再配布されたルートに割り当てられます。ルートマップによって設定されたメトリック値が 16 以上の場合、ルートは再配布ではありません。

キーワードを変更または無効にしても、他のキーワードの状態には影響しません。

redistribute コマンドに設定したオプションを削除するには、期待する結果が得られるように **redistribute** コマンドの **no** 形式を慎重に使用する必要があります。

例 1。次の例では、透過的なメトリックでの RIP によるスタティック ルートの再配布を有効にします。

```
switchxxxxxx(config)# router rip
switchxxxxxx(config-rip)# redistribute static metric transparent
switchxxxxxx(config-rip)# exit
```

例 2。次の例では、透過的なメトリックでの RIP によるスタティック ルートの再配布を有効にして、次にメトリックをデフォルトに変更します。

```
switchxxxxxx(config)# router rip
switchxxxxxx(config-rip)# redistribute static metric transparent
switchxxxxxx(config-rip)# no redistribute static metric transparent
switchxxxxxx(config-rip)# exit
```

例 3。次の例では、デフォルトのメトリックでの RIP によるスタティック ルートの再配布を有効にして、次にメトリックを透過的に変更します。

```
switchxxxxxx(config)# router rip
switchxxxxxx(config-rip)# redistribute static
switchxxxxxx(config-rip)# redistribute static metric transparent
switchxxxxxx(config-rip)# exit
```

例 4。次の例では、透過的なメトリックでの RIP によるスタティック ルートの再配布を有効にします。2 番目の再配布コマンドの影響はありません。

```
switchxxxxxx(config)# router rip
switchxxxxxx(config-rip)# redistribute static metric transparent
switchxxxxxx(config-rip)# redistribute static
switchxxxxxx(config-rip)# exit
```

例 5。次の例では、RIP によるスタティック ルートの再配布を無効にします。

```
switchxxxxxx(config)# router rip
switchxxxxxx(config-rip)# no redistribute static
switchxxxxxx(config-rip)# exit
```

router rip

router rip グローバル コンフィギュレーション モード コマンドは、ルータ RIP モードを指定し、無効になっている場合は有効にします。このコマンドの **no** 形式は、RIP をグローバルに無効にして、その設定を削除します。

構文

router rip

no router rip

デフォルト設定

無効

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

RIP は次のグローバル状態をサポートしています。

- disabled
- enabled
- shutdown

RIP グローバル状態の値が **disabled**（デフォルト値）の場合、RIP は動作せず、設定できません。この状態が設定されている場合、RIP 設定は削除されます。任意の RIP グローバル状態から **no router rip** CLI コマンドによって状態を設定できます。

RIP グローバル状態の値が **shutdown** の場合、RIP は動作しませんが、設定はできます。この状態が設定されている場合は、RIP 設定は変更されません。**enabled** RIP グローバル状態から **shutdown** CLI コマンドによって状態を設定できます。

RIP グローバル状態の値が **enabled** の場合、RIP は動作しており、設定できます。状態は、**disabled** RIP グローバル状態から **router rip** CLI コマンドによって、また **shutdown** RIP グローバル状態から **no shutdown** CLI コマンドによって設定できます。

例

次の例は、RIP をグローバルに有効にする方法を示します。

```
router rip
```

show ip rip database

show ip rip database 特権 EXEC モード コマンドは、RIP データベースに関する情報を表示します。

構文

show ip rip database [all | brief | *ip-address*]

パラメータ

- **all**：すべての RIP インターフェイスに関する完全な RIP データベース情報を提供します。オプションはパラメータを省略した場合を想定しています。
- **brief**：RIP データベース情報の一覧ビューを提供します。
- ***ip-address***：指定した IP アドレスに関する完全な RIP データベース情報を提供します。

コマンド モード

特権 EXEC モード

例 1：次の例では、すべての RIP インターフェイスに関する完全な RIP データベース情報を表示します。

```
switchxxxxxx# show ip rip database
RIP is enabled
RIP Administrative state is UP
Default metric value is 1
Redistributing is enabled from
Connected:
Metric is default-metric
Static:

Metric is transparent
IP Interface: 1.1.1.1
Administrative State is enabled
IP Interface Offset is 10
Default Originate Metric is 12
Authentication Type is text
Password is afGRwitew%3
IN Filtering Type is Access List
Access List Name is 10
OUT Filtering Type is Access List
Access List Name is List12
IP Interface: 2.2.2.2
Administrative State is enabled
IP Interface Offset is 2
No Default Originate Metric
Authentication Type is MD5
Key Chain Name is chain1
IN Filtering Type is Access List
Access List Name is 10
OUT Filtering Type is Access List
Access List Name is 12
IP Interface: 3.3.3.3
```

```
Administrative State is enabled
IP Interface Offset is 1
IP Interface is passive
Default Originate Metric 3, on passive too
No Authentication
No IN Filtering
No OUT Filtering
IP Interface: 4.4.4.4
Administrative State is shutdown
IP Interface Offset is 1
No Authentication
No IN Filtering
No OUT Filtering
```

例 2：次の例では、指定した IP アドレスに関する完全な RIP データベース情報を表示します。

```
switchxxxxxx# show ip rip database 1.1.1.1
RIP is enabled
RIP Administrative state is UP
Default Originate Metric: on passive only
Default metric value is 1
Redistributing is enabled from
Connected
Metric is default-metric
Static
Metric is transparent

IP Interface: 1.1.1.1
Administrative State is enabled
IP Interface Offset is 10
Default Originate Metric is 12
Authentication Type is text
Password is afGRwitew%3
IN Filtering Type is Access List
Access List Name is 10
OUT Filtering Type is Access List
Access List Name is List12
```

例 3：次の例では、すべての RIP インターフェイスに関する簡単な RIP データベース情報を表示します。

```
switchxxxxxx# show ip rip database brief
RIP is enabled
RIP Administrative state is UP
Default Originate Metric: route-map is condition
Default metric value is 1
Redistributing is enabled from
Connected
Metric is default-metric
Static
Metric is transparent


IP Interface    Admin    Offset  Passive   Default Auth.  IN Filt. OUT Filt.
                State            Interface Metric  Type   Type     Type
--------------- -------- ------- --------  ------- -----  -------  ---------
100.100.100.100 enabled    10      No          12   Text   Access   Access
2.2.2.2         enabled     2      No               MD5    Access   Access
3.3.3.3         enabled     1      Yes
4.4.4.4         shutdown    1      No
```

例 4：次の例では、RIP が無効の場合の出力を示します。

```
switchxxxxxx# show ip rip database
RIP is disabled
```

show ip rip peers

show ip rip peers 特権 EXEC モード コマンドは、RIP ピアに関する情報を表示します。

構文

show ip rip peers

コマンド モード

特権 EXEC モード

例

```
switchxxxxxx# show ip rip peers
RIP is enabled
Static redistributing is enabled with Default metric
Default redistributing metric is 1
Address       Last          Received       Received
              Update        Bad Packets    Bad Route
------------  ---------     ----------     ---------
1.1.12        00:10:17          -                1
2.2.2.3       00:10:01          -             -
```

shutdown

shutdown ルータ RIP コンフィギュレーション モード コマンドは、RIP グローバル状態を **shutdown** に設定します。このコマンドの **no** 形式は、RIP グローバル状態を **enabled** に設定します。

構文

shutdown

no shutdown

デフォルト設定

有効

コマンド モード

ルータ RIP コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

設定を削除せずに RIP をグローバルに停止するには、**shutdown** CLI コマンドを使用します。

例

次の例は、RIP をグローバルにシャットダウンする方法を示します。

```
router rip
  shutdown
exit
```

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。